

四季彩り

「SDGs」とは、2015年に国連が制定した「地球環境を守りながら人間社会を未来に向かって持続させるために必要な目標」(私の意識)です。世界各国は、30年までに、経済(働きがいのある仕事の確保など)、社会(質の高い教育、貧困の撲滅など)、環境(気候変動対策、海洋資源や陸上生態系の保護など)の3分野に関連する17の目標を達成することが求められています。

長年、環境問題に取り組ん

SDGsによる課題解決

前日銀京都支店長

鈴木 純一

でいる京滋地域はSDGsの先進地とされています。京都市は、エネルギー消費の節約や家庭ゴミの削減などの取り



組みが評価され、昨年、全国815都市の中でトップの評価を得ました。また、滋賀県は1970年代から琵琶湖の水質汚染問題に向き合い、せ

っけん運動」や「第1回世界湖沼環境会議」の開催などの実績があります。昨年には大津市内に「滋賀SDGsXイノベーション」をオープンし、官民一体で取り組んでいます。

もつとも、これらはいくまで現時点の評価で、SDGsを達成するにはさらなる取り組みが必要です。今後、企業は経営指針の中に利益以外の視点や環境面への配慮をどう位置付けるか、あるいは、その取り組みを本業として採算がとれるようにするためにとどうするかなどを、より真剣に考えなければなりません。

そのヒントは、関係者が異口同音に口にする、「SDGsは近江商人が唱えた『売り手よし、買い手よし、世間よし』という『三方よし』の精神と同じである」という言葉の中にあります。さらに国連の専門家は、「地球よし」と「将来よし」の二つを加えてほしいと述べています。

遠い道のりには違いありませんが、自治体、企業、NPOなど多様な関係者が、利他の精神を持ちながら知恵を出し合い、地域の課題解決に取り組むことが、ひいては地球全体の課題解決の第一歩になるはずですね。